

防災気象情報と警戒レベルとの対応について

5段階の警戒レベルを明記して、防災情報が提供されます。

警戒レベル	避難情報等	情報	とるべき行動
5	緊急安全確保	●大雨特別警報 ●氾濫発生情報	●なんらかの災害が既に発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。
4	避難指示	●土砂災害警戒情報 ●氾濫危険情報	●災害が想定される区域等では、町からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていなくてもキキクル(危険度分布)や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください。
3	高齢者等避難	●大雨警報(土砂災害) ●洪水警報 ●氾濫警戒情報	●災害が想定される区域等では、町からの高齢者等避難の発令に留意するとともに、高齢者等以外の方もキキクル(危険度分布)や河川の水位情報等を用いて避難の準備をしたり自ら避難の判断をしてください。
2	大雨等注意報(気象庁)	●大雨注意報 ●洪水注意報	●ハザードマップにより、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。
1	早期注意情報(気象庁)	●早期注意情報	●最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めてください。



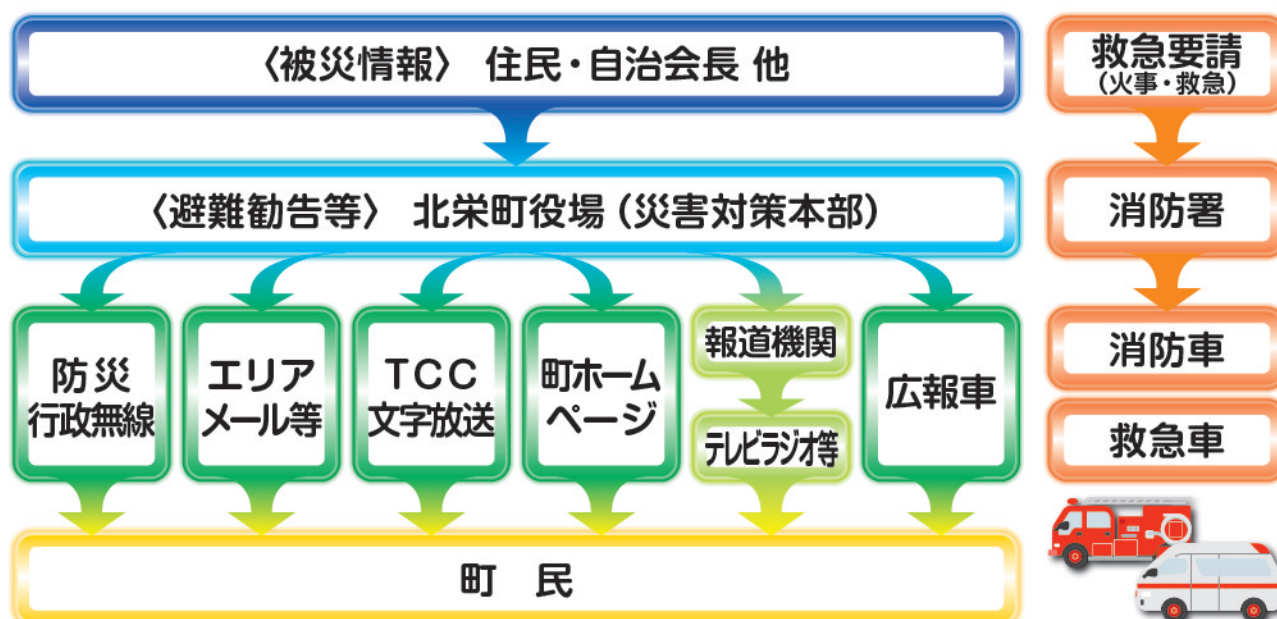
もしも、逃げ遅れた時には『高い場所に避難』しましょう!

もしも逃げ遅れたとき!
今、外に出るとかえって危険があるとき!

<垂直避難のすすめ>

- 自宅等の屋内の高いところに留まる
- 建物の2階以上や屋上などの上階への移動

災害情報の伝達手段及び伝達経路図



避難時の心得

自分から早めに避難する

- 風雨が強くなる前に避難しましょう。
- 避難の呼びかけにはすぐに応じましょう。
- 暗くなると危険です。夜になる前に避難しましょう。



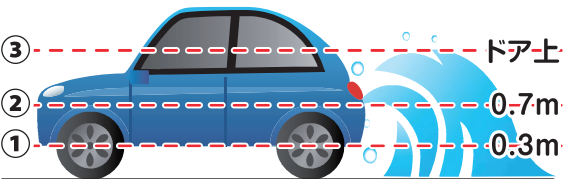
足元に注意！

- 浸水すると道路と水路の区別もつかなくなります。
- 棒など長いもので深い場所がないか確認しながら歩きましょう。



車は使わない！

- 災害時に自動車で避難しないでください。



- ①(水深 30 cm) 水でエンジンが動かなくなる。
- ②(水深 70 cm) 水でドアが開かなくなる。
- ③(水深がドアの上) 車ごと流される。

避難の服装

- 避難時は運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。
- 歩ける深さは大人でも膝下までが目安です。
- 大人は子どもから手を離さないでください。



避難時の携行物

- 避難後すぐ必要になるものを、持ち運びしやすいようにまとめておきましょう。
- 欲張りすぎると避難時に支障が生じます。男性は15kg、女性は10kgを目安にしましょう。
- 定期的に持ち出し品を点検するようにしましょう。

項 目	一次持ち出し品の例	備 考
貴重品	☐ お金 (10円玉も) ☐ 健康保険証・免許証 ☐ 家や車のカギ・携帯電話	公衆電話のために、10円玉は多めに用意しましょう。
避難用具	☐ ラジオ ☐ 懐中電灯 ☐ 電池 ☐ ヘルメット	乾電池は、必要な型を確認して用意しましょう。
緊急用具	☐ 傷薬・湿布薬・ばんそうこう ☐ 常備薬 ☐ 三角巾・包帯・脱脂綿	薬品は、温度や湿度が高いところでは変質する場合もあるので、保管場所に注意しましょう。
非常食料・食器	☐ 飲料水・乾パン・缶詰 ☐ ビニール袋 ☐ 紙食器・缶切りなど	飲料水は 1 人 1 日 3 リットルが目安です。
衣 類	☐ 下着類・防寒着 ☐ 毛布・雨ガッパ ☐ タオル・ハンカチ	最低2～3日は生活できる用意が必要です。
生活用品 その他	(道 具) ☐ 軍手、万能ナイフ ☐ マッチ、ライター (生活用品) ☐ ビニールシート ☐ ひも・ガムテープ ☐ ティッシュ・洗面用具 ☐ 生理用品・赤ちゃん用品 ☐ 筆記用具、住所録 ☐ 裁縫道具 など	乳幼児がいるご家庭では、ミルク・離乳食等も忘れずに。

自分たちの身の安全は自ら守る（自助）



ハザードマップ、避難所、避難ルートを確認しましょう。

ハザードマップで、災害時の危険箇所や避難所、避難ルートを確認しましょう。

地域によっては、地震や火災、津波で、避難所が違ふことがあります。

勤務先、通学先での確認・準備も

勤務先や通学先など、ひんぱんに通う場所でも、避難所や避難ルートを確認し、避難の準備をしておきましょう。



連絡方法を決めておきましょう。

災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板など、災害時の連絡手段が充実してきました。

いざというときの連絡方法を、あらかじめ家族などと決めておきましょう。

自分たちの地域はみんなで守る（共助）

みんなで助け合って早めに避難しましょう。

地域で協力し合いながら、近所のお年寄り、子ども、妊婦さん、障がいがある方などの安否確認、避難の支援をしましょう。

隣近所、一人暮らしのお年寄りに声をかけて



目の不自由な人にははっきり大きな声で



耳の不自由な人には紙とペンで会話



自主防災組織

自主防災組織とは

地域社会のなかで防災という共通の目的を持って結成され、自主防災の組織的対応のもとに、地域の人々が協力し合って、災害に立ち向かうための組織です。



役割と必要性

災害が起きた場合などは、消防車や救急車がすぐに現場へ行けるとは限らない状況になることがあります。

そのときには、自主防災組織の活動が重要となります。

地域住民が中心となって消火活動や、救出・救護活動を行うことが必要なのです。

平常時の活動

防災知識の普及

防災についての正しい知識を身につけるために、防災訓練や講習会を通して、防災知識の普及を行います。



防災訓練の実施

日頃から災害に備えて訓練を行い、消火器の使用法など防災活動に必要な知識や技術を習得します。



地域内の防災環境の確認

災害が発生した時に、地域内に被害の発生・拡大につながる原因がないか、また、援助の必要な災害弱者の確認を行います。



防災用資機材の整備点検

消火活動、応急手当、救出・救護、避難誘導の活動用の資機材の整備点検を行います。



家庭の安全点検

各家庭の災害時の安全対策を点検・整備します。



非常時持出品の周知

食料品、衣類、医療品などの必要物資の周知を行います。

